

大地の声



野田市岡田でだいこんとにんじんを主力に野菜を栽培する^{えんごういさお}遠郷 功さん。遠郷さんは、岡田支部を通して野菜を全量共撰出荷しています。また、野菜のほかにもブロイラー（肉鶏）を出荷。堆肥を利用した土づくりで循環型農業に取り組んでいます。

詳しくは 16 ページをご覧ください

JAちば東葛管内各地区で、
4月中旬から査定会・目揃え会が
行われました。
シーズンを迎え、各団体本格的な
出荷が始まりました。



本格出荷を前に
各地区で査定会・
目揃え会が
行われました

柏小かぶ共撰部会 (柏地区)

柏小かぶ共撰部会は4月11日、柏集出荷場で目揃え会を行いました。春小かぶの共撰出荷開始を前に、部会員の皆さんとJA全農ちばの職員が小かぶの形状や肌色など、等級の選別基準を確認しました。

同部会の江口武会長は「数も増えてきたので共撰出荷を始めます。皆さん多大な出荷をお願いします」と話しました。

同部会では4月15日から共撰出荷が始まり、7月中旬まで出荷が行われます。



前貝塚トマト共販組合 (西船地区)

前貝塚トマト共販組合は4月26日、西船地区多目的ホール会議室で販売会議を行いました。この日は生産者のほか、東葛飾農業事務所など関係者を含む7名が参加しました。

会議前、生産者2名の圃場を視察し、栽培状況や病害虫の発生状況の確認を行いました。その後の販売会議では、市場担当者を中心に、規格の確認や販売戦略の検討が行われました。

同組合では5月から出荷を開始し、本格的なシーズンを迎えます。

木間ヶ瀬大山出荷組合 (野田地区)

木間ヶ瀬大山出荷組合は5月6日、キャベツの出荷査定会を野田地区多目的ホール会議室で行いました。市場関係者を含む12名が参加し、規格の確認や市況などの情報交換を行いました。

4月下旬から本番を迎えた同組合のキャベツは、7月上旬まで出荷が行われます。今年度から、新たに東京青果(株)への出荷も開始し、安定的な販路確保を行い、更なる所得増大を目指します。





蔬菜組合岡田支部 (野田地区)

蔬菜組合岡田支部は5月10日、人参の出荷査定会を岡田支部集出荷場(野田市)で行い、市場関係者を含む13名が参加しました。

JA全農ちばの職員は現在の生育状況について「今年は他産地も含め潤沢な出荷であるため、例年より単価を下回っています。厳しい状況が続いているが、他産地の出荷が減少する5月中旬以降は軟調な販売となるでしょう」と説明しました。

千葉県は全国2位を誇る人参の産地でもあり、5月下旬から旬を迎え出荷量がまとまる見込みです。



印内出荷組合 (西船地区)

印内出荷組合は5月14日、枝豆の出荷査定会を印内八坂神社(船橋市)で行いました。査定会には生産者のほか、東葛飾農業事務所や市場関係者を含む23名が参加。今年の栽培状況や他産地の出荷状況などについて報告があった後、生産者の皆さんがそれぞれ規格や出荷時の注意点などを確認しました。

その後、参加者は同組合生産者の圃場へ移動し、生育状況を確認しました。

川間園芸部 (野田地区)

川間園芸部は5月17日、枝豆の出荷査定会を野田地区経済センター集出荷場で行いました。

査定会には生産者のほか、JA全農ちば、市場関係者を含む30名が参加しました。

栗原部長から原油の高騰や資材の値上がりなど農業を取り巻く情勢について話があった後、規格の確認などを確認しました。また、市場関係者からは市況と傾向について話がありました。

栗原部長は「誇りをもって、安定・良質な供給をしたい」と話しました。



新体制となりました—野田地区女性部



支部長の皆さん

野田地区女性部は4月13日、野田地区多目的ホール会議室にて総会を行いました。

新型コロナウイルス感染症拡大予防として、各支部の支部長5名のみで開催となりました。

参加した皆さんは、女性部の現状や課題、今後の取り組みについて熱心に話し合いを行いました。



石山新部長から胡蝶蘭が贈られました

なお、この日をもって平成26年から部長を務められていた横川しげ子さんが退任、新たに石山美代子さんが部長に就任しました。

70周年を迎えました—西船地区女性部



西船地区女性部は4月19日、西船地区多目的ホール会議室で通常総会と70周年記念式を行い27名が参加しました。

総会では議長に金子しのぶ部長を選任し、

提案された3議案を承認しました。第3議案「役員改選について」では、昨年に引き続き金子しのぶ部長、三須美千代副部長、小川佳子副部長の再任が決められました。

その後の70周年記念式典では、金子部長の挨拶、青木進組合長の祝辞紹介に続き、記念品の贈呈が行われました。なお、記念式典は本来昨年開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期、1年遅れとなりましたが実現しました。



挨拶をする金子部長



女性部役員と新たな体制となった西船地区職員

地域農業を守るため—JA



参議院議員藤木眞也氏と



千葉県知事熊谷俊人氏と



千葉県議会議員白井正一氏と

JAでは、地域の農業と社会を守り、持続可能な農業と更なる発展を目的に、継続的な意見交換を行っています。

私たちの生活を支える第一次産業の重要性を伝え、現状とこれから訪れる問題の共有と、解決に向けた協力体制の構築を要請すべく、今後も活発的な意見交換を行い行政との連携を図ります。

市長に枝豆と小松菜の出来映えを報告しました

—西船橋枝豆研究会、西船橋葉物共販組合、JA

5月26日、西船橋枝豆研究会の高橋宏幸会長、西船橋葉物共販組合の平野徹組合長、当JAの高橋和夫船橋市統括理事、木下宏之専務理事、大木英樹指導経済部次長が船橋市役所を訪れ、松戸徹市長に同市のブランド野菜の枝豆と小松菜の出来映えを報告しました。

この日両団体は、[茹でたて枝豆] [小松菜のナムル] [ゼラート2種(枝豆・小松菜)]を用意。市長をはじめ同席した関係者に試食をしてもらいました。また両団体は、葉付き枝豆・鮮度保持ができるFG袋入り枝豆、小松菜を同市へ贈呈しました。松戸徹市長は「船橋産の農産物は他の市町村からも好評。連携して更にPRしていきたい」と話しました。



松戸市長(左から3番目)を訪問した関係者ら

ジャンボかぼちゃを定植—東部支店



大きくなるようお祈りする子供たち

東部支店は5月20日、柏市立手賀東小学校へジャンボかぼちゃの苗を贈呈しました。

この日は柏市布瀬の圃場で贈呈式が行われ、同支店林支店長が代表児童へ苗を手渡しました。苗を手にした児童たちは、「大きくな〜れ」とお願いしながら丁寧に定植しました。児童らが育てたかぼちゃは、秋に東部支店で行う「ジャンボかぼちゃコンクール」で「大きさの部」などの賞を設け展示する予定です。

この活動は、当JAが今年度から開始した、組合員や地域住民のくらしの各分野を支援する「くらしの活動」の一環として行いました。同支店では、PTAや近隣住民の協力のもと、次世代を担う児童に向け、作物への興味と育てる大切さを学ぶきっかけとして開始しました。

練習の成果を披露しました—野田地区年金友の会



野田地区年金友の会は5月20日、関宿総合公園で第9回グラウンドゴルフ大会を開催しました。会員101名が参加し8ホールを4ラウンド回り、2年半ぶりのプレーを楽しみました。



日頃の成果を存分に発揮し、上位3位は次の方々になりました。(敬称略)

- 男性 優勝：藤井光之(七福支店) 準優勝：清水栄(旭支店) 第3位：南部菊男(七福支店)
- 女性 優勝：浜野悦子(旭支店) 準優勝：栗田幸子(二川支店) 第3位：石井敏子(川間駅前支店)